

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成29年3月16日(2017.3.16)

【公表番号】特表2012-524784(P2012-524784A)

【公表日】平成24年10月18日(2012.10.18)

【年通号数】公開・登録公報2012-042

【出願番号】特願2012-507281(P2012-507281)

【国際特許分類】

C 07 D	417/14	(2006.01)
A 01 P	3/00	(2006.01)
A 01 N	43/80	(2006.01)
A 01 N	43/90	(2006.01)
A 01 N	47/38	(2006.01)

【F I】

C 07 D	417/14	C S P
A 01 P	3/00	
A 01 N	43/80	1 0 1
A 01 N	43/90	1 0 5
A 01 N	47/38	A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年2月6日(2017.2.6)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0116

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0116】

化合物1の結晶性多形体形態の1種が形態Aと命名されている。この固体形態は、溶媒和されていないと共に、ラセミ体である。形態Aは、粉末X線回折(XRPD)、単結晶X線構造分析、および、示差走査熱量測定法(DSC)によって特性決定されることが可能である。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0122

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0122】

形態Bと命名した化合物1の第2の結晶性多形体形態を、結晶形Aの溶解度/MSZW(準安定ゾーン幅)測定実験から最初に単離した(調製例3を参照のこと)。この固体形態は、溶媒和されていないと共に、ラセミ体である。多形体形態Bは、粉末X線回折、単結晶X線構造分析、および、示差走査熱量測定法により特性決定されることが可能である。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 2 反射位置

【表 1】

<u>2θ</u>
14.902
18.123
18.87
20.204
20.883
21.79
24.186
26.947

を有する粉末 X 線回折パターンにより特性決定される形態 B と命名された 1 - [4 - [4 - [5 - (2 , 6 - ジフルオロフェニル) - 4 , 5 - ジヒドロ - 3 - イソオキサゾリル] - 2 - チアゾリル] - 1 - ピペリジニル] - 2 - [5 - メチル - 3 - (トリフルオロメチル) - 1 H - ピラゾール - 1 - イル] エタノンの結晶性多形体。

【請求項 2】

少なくとも 2 反射位置

【表 2】

<u>2θ</u>
14.902
18.123
18.87
20.204
20.883
21.79
24.186
26.947

を有する粉末 X 線回折パターンにより特性決定される形態 B と命名された 1 - [4 - [4 - [5 - (2 , 6 - ジフルオロフェニル) - 4 , 5 - ジヒドロ - 3 - イソオキサゾリル] - 2 - チアゾリル] - 1 - ピペリジニル] - 2 - [5 - メチル - 3 - (トリフルオロメチル) - 1 H - ピラゾール - 1 - イル] エタノンの結晶性多形体を製造する方法であって、
2 - ブロモ - 1 - [4 , 5 - ジヒドロ - 5 - (2 , 6 - ジフルオロフェニル) - 3 - イソ
オキサゾリル] エタノンおよび 1 - [2 - [5 - メチル - 3 - (トリフルオロメチル) -
1 H - ピラゾール - 1 - イル] アセチル] - 4 - ピペリジンカルボチオアミドをアルカノ
ール溶剤の存在下に接触させて反応混合物を形成する工程；前記反応混合物を塩基で中和
する工程；ならびに、水および多形体形態 B の種子結晶を前記反応混合物に添加する工程
を含む方法。

【請求項 3】

前記アルカノール溶剤が、メタノールおよびエタノール、ならびにそれらの混合物から選択される、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

少なくとも 2 反射位置

【表3】

<u>2θ</u>
14.902
18.123
18.87
20.204
20.883
21.79
24.186
26.947

を有する粉末X線回折パターンにより特性決定される形態Bと命名された1-[4-[4-[5-(2,6-ジフルオロフェニル)-4,5-ジヒドロ-3-イソオキサゾリル]-2-チアゾリル]-1-ピペリジニル]-2-[5-メチル-3-(トリフルオロメチル)-1H-ピラゾール-1-イル]エタノンの結晶性多形体を製造する方法であって、少なくとも2反射位置

【表4】

<u>2θ</u>
13.321
17.353
17.563
19.329
22.93
24.326
25.852
26.792

を有する粉末X線回折パターンにより特性決定される形態Aと命名された1-[4-[4-[5-(2,6-ジフルオロフェニル)-4,5-ジヒドロ-3-イソオキサゾリル]-2-チアゾリル]-1-ピペリジニル]-2-[5-メチル-3-(トリフルオロメチル)-1H-ピラゾール-1-イル]エタノンの結晶性多形体をアルカノールを含む溶剤と混合してスラリーを形成する工程；多形体形態Bの種子結晶を前記スラリーに添加する工程；ならびに、多形体形態Aが多形体形態Bに転化する間前記スラリーを維持する工程を含む方法。

【請求項5】

前記溶剤が30容量%以下の水を含み、前記アルカノールが、メタノールおよびエタノール、ならびにそれらの混合物から選択される、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

前記溶剤と混合された後の前記多形体形態Aが、多形体形態Bとの混和物である、請求項4に記載の方法。

【請求項7】

(a) 少なくとも2反射位置

【表5】

2θ
14.902
18.123
18.87
20.204
20.883
21.79
24.186
26.947

を有する粉末X線回折パターンにより特性決定される形態Bと命名された1-[4-[4-[5-(2,6-ジフルオロフェニル)-4,5-ジヒドロ-3-イソオキサゾリル]-2-チアゾリル]-1-ピペリジニル]-2-[5-メチル-3-(トリフルオロメチル)-1H-ピラゾール-1-イル]エタノンの結晶性多形体；ならびに、(b)界面活性剤、固体希釈剤および液体キャリアからなる群から選択される少なくとも1種の追加の成分を含む殺菌・殺カビ組成物。

【請求項8】

成分(a)が分散された連続液体相を形成する液体キャリアを含む、請求項7に記載の殺菌・殺カビ組成物。

【請求項9】

前記連続液体相を形成する前記液体キャリアが、前記液体キャリアの重量を基準にして少なくとも50 %の水を含有する、請求項8に記載の殺菌・殺カビ組成物。

【請求項10】

前記連続液体相中に乳化された水不混和性の液体成分をさらに含む、請求項9に記載の殺菌・殺カビ組成物。

【請求項11】

前記連続液体相を形成する前記液体キャリアが水不混和性である、請求項8に記載の殺菌・殺カビ組成物。

【請求項12】

(a)少なくとも2反射位置

【表6】

2θ
14.902
18.123
18.87
20.204
20.883
21.79
24.186
26.947

を有する粉末X線回折パターンにより特性決定される形態Bと命名された1-[4-[4-[5-(2,6-ジフルオロフェニル)-4,5-ジヒドロ-3-イソオキサゾリル]

- 2 - チアゾリル] - 1 - ピペリジニル] - 2 - [5 - メチル - 3 - (トリフルオロメチル) - 1 H - ピラゾール - 1 - イル] エタノンの結晶性多形体 ; ならびに、(b) 少なくとも 1 種の他の殺菌・殺カビ剤および / または殺虫剤を含む殺菌・殺カビ組成物。

【請求項 1 3】

成分 (b) が、殺菌・殺カビ剤 : アミスルプロム、アゾキシストロビン、ベンチアバリカルブ、ベンチアバリカルブ - イソプロピル、ボルドー液、ボスカリド (ニコビフェン) 、カルボキシン、クロロタロニル、水酸化銅、オキシ塩化銅、硫酸銅、シアゾファミド、シモキサニル、シプロコナゾール、ジフェノコナゾール、ジメトモルフ、ファモキサドン、フルアジナム、フルジオキソニル、フルオピコリド、フルシラゾール、フォルペット、フォセチル - アルミニウム、イプロバリカルブ、クレソキシム - メチル、マンコゼブ、マンジプロパミド、メタラキシル、メタラキシル M 、ミクロブタニル、オリサストロビン、ベンチオピラド、ホスホン酸、亜リン酸および塩、ピコキシストロビン、プロパモカルブ、プロパモカルブ - H C 1 、プロピコナゾール、プロキナジド、ピラクロストロビン、キノキシフェン、スピロキサミン、テブコナゾール、テトラコナゾール、トリフロキシストロビンおよびバリフェナル

から選択される、請求項 1 2 に記載の殺菌・殺カビ組成物。